

教科	芸術	科目	音楽 I	単位数	2	年次	I 年次
使用教科書	MOUSA1 (教育芸術社)						
副教材等	特になし。						

1. 担当者から生徒へのメッセージ

本校の音楽 I 授業では、「うたう」ことを核とし、「ハーモニー」について様々な角度からアプローチを行い、音楽をより深く専門的に学んでいきます。よりよい音楽表現を絶えず追求め、仲間とともに探究することは大変ではありますが、その地道な積み重ねによって一人ひとりの人生を主体的に切り拓いていくためのヒントが見つかることを期待しています。1年間楽しんで音楽を学んでいきましょう！また、学習の到達度は、主に授業で配布するワークシートや実技テスト・演奏発表で評価します。

2. 学習の到達目標

音楽の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することをめざす。

(1) 曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。

(2) 自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴くことができるようにする。

(3) 主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。

また本校音楽科では、他者と協働してアンサンブルに取り組むことで、以下のような資質・能力を育成したい。

① **豊かな感性** (自分や他者の小さな変化に気づくことができる・美しいものを美しいと感じる心)

② **人をいたわり思いやりの心をもつこと**

(チームで音楽作品を仕上げる経験を通して、互いを尊重しつつも自らの思いや考えを相手にしっかりと伝え、そのことに共感することのできる豊かな人間関係を構築する)

③ **ファシリテーション能力** (リーダーシップ発揮のための中核となるスキル)

3. 評価の観点と評価方法

観点	a：知識・技能	b：思考・判断・表現	c：主体的に取り組む態度
観 点 の 趣 旨	<ul style="list-style-type: none"> ・曲想と音楽の構造や文 化的・歴史的背景など との関わり及び音楽の多 様性について理解して いる。 ・創意工夫を生かした音 楽表現をするために必 要な技能を身に付け、歌 唱、器楽、創作で表して いる。 	音楽を形づくっている要 素や要素同士に関連を知 覚し、それらの働きを感 受しながら、知覚したこ とと感受したこととの関 わりについて考え、どの ように表すかについて表 現意図をもったり、音楽 を評価しながらよさや美 しさを自ら味わって聴い たりしている。	主体的・協働的に表現及び 鑑賞の学習活動に取り組も うとしている。
評 価 方 法	実技テスト 演奏発表 ワークシート 小テスト	実技テスト 演奏発表 ワークシート レポート	ワークシート レポート 学習に対する主体的・協働 的な取り組み（観察）

4. 学習の活動

学期	学習内容（単元・項目）
年間	年間を通して、ソルフェージュを適宜取り入れる。（視唱・視奏・聴音）
1 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・斉唱「附高校歌」 校歌の成り立ちと歴史を知り、校歌に込められた思いを探る ・合唱作品を2曲～3曲程度取り上げ、合唱における基礎的なハーモニー感覚を身に付けるとともに、音楽表現を深く探究するプロセスを学ぶ。 ・既成の楽曲をもとにした少人数歌唱アンサンブル ★1学期末 1年音楽選択生による校内発表会 クラス別の合唱発表と少人数歌唱アンサンブル発表
2 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・1学期での学びを発展させ、幅広い曲想かつ多様なハーモニーを味わうことのできる合唱作品を2～3曲取り上げる。 ・鑑賞 日本の伝統音楽について （※ASMSA との音楽を通じた文化交流） ★2学期末 1・2年音楽選択生による校内発表会（聴きあい会）
3 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・創作活動への導入 ・アルトリコーダーアンサンブル ・2年次に取り組みレパートリーへの導入 （※PCSHS との音楽を通じた文化交流）

5. 科学のもり(SSHプログラム)との関連

- 科学的な探究方法の習得と科学的な思考力の育成
- 他者に対する表現力や他者との協働性の育成
- 異文化理解の形成と国際的な視野の獲得
- 文理や教科の枠を越えて転移可能な理解の形成
- 自ら設定した目標をやり遂げようとする責任感の育成
- 自らの成長を認知し、さらなる成長につなげる力の育成

教科	芸術	科目	音楽Ⅱ	単位数	1	年次	Ⅱ年次
使用教科書	MOUSA2（教育芸術社）						
副教材等							

1. 担当者から生徒へのメッセージ

音楽Ⅱでは1単位となり、限られた授業時間ではありますが、本授業を中高一貫の集大成として位置付け、幅広い曲想の合唱作品を取り上げて勉強します。弦楽伴奏やジャズのピアノトリオなど本格的な編成での合唱演奏を体験します。今まで学んできた音楽的な見方・考え方を働かせ、音楽活動に精一杯取り組んでほしいと期待しています。また、学習の到達度は、主に授業で配布するワークシートや実技テスト・演奏発表で評価します。

2. 学習の到達目標

音楽の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することをめざす。

(1) 曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。

(2) 自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴くことができるようにする。

(3) 主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。

音楽Ⅰで学習したことを踏まえ、より高度で豊かな表現力を学ぶ。創意工夫を生かした歌唱表現をするために必要な以下の技能を身につける。

- ・曲にふさわしい発声法・身体の使い方
- ・他者との調和（ハーモニー）を意識して歌う技能
- ・表現形態の特徴や表現上の効果を生かして歌う技能

（それぞれの場面における各声部の役割を把握する等のスコアリーディング）

3. 評価の観点と評価方法

観点	a：知識・技能	b：思考・判断・表現	c：主体的に取り組む態度
観 点 の 趣 旨	<p>・曲想と音楽の構造や文 化的・歴史的背景など との関わり及び音楽の多 様性について理解して いる。</p> <p>・創意工夫を生かした音 楽表現をするために必 要な技能を身に付け、歌 唱、器楽、創作で表して いる。</p>	<p>音楽を形づくっている要 素や要素同士に関連を知 覚し、それらの働きを感 受しながら、知覚したこ とと感受したこととの関 わりについて考え、どの ように表すかについて表 現意図をもったり、音楽 を評価しながらよさや美 しさを自ら味わって聴い たりしている。</p>	<p>主体的・協働的に表現及び 鑑賞の学習活動に取り組 もうとしている。</p>
評 価 方 法	<p>実技テスト 演奏発表 ワークシート 小テスト</p>	<p>実技テスト 演奏発表 ワークシート レポート</p>	<p>ワークシート レポート 学習に対する主体的・協働 的な取り組み（観察）</p>

4. 学習の活動

学期	学習内容（単元・項目）
1 学期	<p>混声四部合唱作品より</p> <p>①ルック・アット・ザ・ワールド ～世界はたからもの～ 作詞・作曲：ジョン・ラター(1945-) 日本語詞 ヘルビック貴子</p> <p>②ハレルヤ（オラトリオ「メサイア」より） 作曲：ゲオルク・フリードリヒ・ヘンデル(1685-1759)</p> <p>③アヴェ・ヴェルム・コルプス 作曲：ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト(1756-1791)</p>
2 学期	<p>混声四部合唱作品より</p> <p>④They Say It's Spring（ジャズ・コーラス） 作詞・作曲：マーティン・クラーク ボブ・ヘイムズ 編曲：グレッグ・ジャスパース</p> <p>⑤未来へ（混声合唱曲集「かなしみはあたらしい」より） 作詞：谷川俊太郎 作曲：信長貴富</p> <p>★2学期末 1・2年音楽選択生による校内発表会（聴きあい会）</p>
3 学期 （年間）	<p>鑑賞 What is JAZZ? バロック音楽・古典派音楽について</p> <p>グループ創作活動</p> <p>★グループ創作発表</p>

5. 科学のもり(SSHプログラム)との関連

- 科学的な探究方法の習得と科学的な思考力の育成
- 他者に対する表現力や他者との協働性の育成
- 異文化理解の形成と国際的な視野の獲得
- 文理や教科の枠を越えて転移可能な理解の形成
- 自ら設定した目標をやり遂げようとする責任感の育成
- 自らの成長を認知し、さらなる成長につなげる力の育成

教科	芸術	科目	美術 I	単位数	2	年次	II 年次
使用教科書	高校生の美術 1 (日本文教)						
副教材等	特になし。						

1. 担当者から生徒へのメッセージ

美術は、油絵や日本画、版画、彫刻、工芸、デザインなど様々な分野があります。それぞれに材料の面白さや魅力があり、それに興味を持って作品制作に取り組んでくれると嬉しいです。課題に取り組んでいくうちに悩むこともあると思います。まずは挑戦して、次はどうしようかと試行錯誤を繰り返し、取り組んでいきましょう。また一つの課題に対して、一人ひとり違った表現をみることが出来る科目であり、その違いの多様さの面白さをぜひ味わってください！

2. 学習の到達目標

自分が思い描いた表現をするため、色彩や構図、描き方など多方面から考える力を養うことを目標とする。また自身がしたい表現をするために必要な技法や道具を選択する力をつける。他者との表現の違いに興味を持ち、よさを見つけ、自身の見方・考え方を広げることを目指す。

- (1) 美術の意義や基礎となる理論について理解を深めることを目指し、創意工夫をするための必要な知識・技能を身に付けることを目指す。
- (2) 美術に関する基礎的な理論を基盤にして、自然や生活、社会と美術との関係について考えたり、創造することの価値について考えることを目指す。
- (3) 芸術としての美術の意義や働きについて主体的に考察するなどして、美術を専門的に学ぼうとする態度を養うことを目指す。

3. 評価の観点と評価方法

観点	a : 知識・技能	b : 思考・判断・表現	c : 主体的に取り組む態度
観 点 の 趣 旨	生徒自身が思い描いた表現を実現するため、必要な技術や技法、用具、また色彩や構図、描き方を場面に応じて選択することができる。	美術に関する基礎的な理論を基盤にして、自然や生活、社会と美術との関係について考えたり、創造することができる。	美術の創作活動に喜びを味わい、主体的に表現や活動を意欲的に取り組むことができる。
評 価 方 法	作品やワークシートなどの提出物	作品やワークシートなどの提出物	授業態度や課題に取り組む態度
	生徒が何を表現したいのかを確認し、それに応じた指導を行う。		

4. 学習の活動

学期	学習内容（単元・項目）
1 学期	・○○している手・絵画 ある場面の手を、黒画用紙に白鉛筆で表現する課題 ・イラストレーション、デザイン 視覚的に分かりやすく伝えるための課題
2 学期	・食卓で用いる器・工芸 使うことを念頭に、どのような器があればいいかを考え、制作する ・抽象彫刻・立体 粘土を用いて、抽象彫刻を制作する課題
3 学期	・ポスターで伝える・デザイン ポスターを通して、伝えたい内容を、言葉や絵で視覚的に分かりやすく伝える課題

5. 科学のもり(SSHプログラム)との関連

- 科学的な探究方法の習得と科学的な思考力の育成
- 他者に対する表現力や他者との協働性の育成
- 異文化理解の形成と国際的な視野の獲得
- 文理や教科の枠を越えて転移可能な理解の形成
- 自ら設定した目標をやり遂げようとする責任感の育成
- 自らの成長を認知し、さらなる成長につなげる力の育成

教科	芸術	科目	美術Ⅱ	単位数	1	年次	Ⅱ年次
使用教科書	高校生の美術2（日本文教）						
副教材等	特になし。						

1. 担当者から生徒へのメッセージ

美術Ⅱでは、美術Ⅰで学習した知識・技能を踏まえ、表現の幅を広げ取り組んでいきましょう。課題に取り組んでいくうちに、悩むこともあると思います。まずは挑戦して、次はどうしようかと試行錯誤を繰り返し、取り組んでいってください。また一つの課題に対して、一人ひとり違った表現を見ることができる科目であり、その違いの多様さの面白さをぜひ味わってください！

2. 学習の到達目標

自分が思い描いた表現をするため、色彩や構図、描き方など多方面から考える力を養う。また自身がしたい表現をするために必要な技法や道具を選択する力をつける。他者との表現の違いに興味を持ち、よさを見つけ、自身の見方・考え方を広げることを目指す。

- （1）美術の意義や基礎となる理論について理解を深めることを目指し、創意工夫をするための必要な知識・技能を身に付けることを目指す。
- （2）美術に関する基礎的な理論を基盤にして、自然や生活、社会と美術との関係について考えたり、創造したりすることの価値について考えることを目指す。
- （3）芸術としての美術の意義や働きについて主体的に考察するなどして、美術を専門的に学ぼうとする態度を養うことを目指す。

3. 評価の観点と評価方法

観点	a：知識・技能	b：思考・判断・表現	c：主体的に取り組む態度
観 点 の 趣 旨	生徒自身が思い描いた表現を実現するため、必要な技術や技法、用具、また色彩や構図、描き方を場面に応じて選択することができる。	美術に関する基礎的な理論を基盤にして、自然や生活、社会と美術との関係について考えたり、創造することができる。	美術の創作活動に喜びを味わい、主体的に表現や活動を意欲的に取り組むことができる。
評 価 方 法	作品やワークシートなどの提出物	作品やワークシートなどの提出物	授業態度や課題に取り組む態度
	生徒が何を表現したいのかを確認し、それに応じた指導を行う。		

4. 学習の活動

学期	学習内容（単元・項目）
1学期	・空間を生かして童話を描こう・絵画 空間をゆがませることで、場面に動きをつけ、童話をテーマに童話を描く ・絵画を鑑賞しよう・鑑賞 絵画を鑑賞し、絵画の見方・考え方を広げる
2学期	・空間を生かして童話を描こう（一学期に引き続き）・絵画 ・日本の伝統に触れよう・工芸 日本工芸について学び、染色で作品制作をする
3学期	・一番伝えたいことをポスターで・デザイン 今一番伝えたいテーマを自分で設定し、それに応じた表現方法を考え、ポスターを制作する。

5. 科学のもり(SSHプログラム)との関連

<input type="checkbox"/> 科学的な探究方法の習得と科学的な思考力の育成
<input type="checkbox"/> 他者に対する表現力や他者との協働性の育成
<input type="checkbox"/> 異文化理解の形成と国際的な視野の獲得
<input type="checkbox"/> 文理や教科の枠を越えて転移可能な理解の形成
<input checked="" type="checkbox"/> 自ら設定した目標をやり遂げようとする責任感の育成
<input type="checkbox"/> 自らの成長を認知し、さらなる成長につなげる力の育成

教科	芸術	科目	書道 I	単位数	2	年次	I 年次
使用教科書	書 I (光村図書)						
副教材等	くせ字がなおるペン字練習帳 (新星出版社)						

1. 担当者から生徒へのメッセージ

書道の授業は、ただ単にお手本を書き写すだけではありません。多様な書の美に触れ、さまざまな書表現の要素について学ぶことで、自分なりに表現する力をつけてほしいと思っています。授業では、過去の優れた筆跡(古典)を手本として書く「臨書」と臨書から学んだことを生かして独自の作品をつくる「創作」を繰り返すことによって、表現力を高めていきます。また、石に文字を刻す篆刻や、仮名の書にも挑戦します。

2. 学習の到達目標

書道の幅広い活動を通して、書に関する見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 書の表現の方法や形式、多様性などについて幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身に付けるようにする。
- (2) 書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい捉えたりすることができるようにする。
- (3) 主体的に書の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

3. 評価の観点と評価方法

観点	a : 知識・技能	b : 思考・判断・表現	c : 主体的に取り組む態度
観 点 の 趣 旨	<ul style="list-style-type: none"> ・書の表現の方法や形式、多様性などについて幅広く理解している。 ・書の伝統に基づき、作品を効果的に表現するための基礎的な技能を身に付け、表している。 	<ul style="list-style-type: none"> 書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい捉えたりしている。 	主体的に書の表現及び鑑賞の創造的な活動に取り組もうとしている。
評 価 方 法	<ul style="list-style-type: none"> 作品 ワークシート レポート 	<ul style="list-style-type: none"> 作品 ワークシート レポート 	<ul style="list-style-type: none"> ワークシート ポートフォリオ

4. 学習の活動

学期	学習内容（単元・項目）
1 学期	<p>【書写から書道へ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・芸術としての書道 ・文字の成り立ちと書体の変遷 ・用具用材と扱い方 ・基本姿勢 <p>【漢字の書（楷書）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・楷書の古典臨書 （孔子廟堂碑・九成宮醴泉銘・雁塔聖教序・顔氏家廟碑・牛橛造像記・鄭義下碑） ・倣書 （2字の熟語を学習した古典の雰囲気を書く。） ・学習した楷書の古典の中からひとつを選び、半切臨書作品を制作。 （「国際高校生選抜書展」に出品）
2 学期	<p>【漢字の書（行書・草書・隸書・篆書）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行書の古典臨書（蘭亭序・風信帖） ・草書の古典臨書（真草千字文） ・隸書の古典臨書（曹全碑） ・篆書の古典臨書（泰山刻石） ・漢字の書の創作と鑑賞会
3 学期	<p>【篆刻】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・姓名印の制作 <p>【仮名の書】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仮名の成立と種類 ・仮名の古筆臨書（いろはうた・蓬菜切） <p>★年度末に校内作品展示会を開催予定</p>

5. 科学のもり(SSHプログラム)との関連

- | |
|--|
| <input type="checkbox"/> 科学的な探究方法の習得と科学的な思考力の育成
<input checked="" type="checkbox"/> 他者に対する表現力や他者との協働性の育成
<input type="checkbox"/> 異文化理解の形成と国際的な視野の獲得
<input type="checkbox"/> 文理や教科の枠を越えて転移可能な理解の形成
<input type="checkbox"/> 自ら設定した目標をやり遂げようとする責任感の育成
<input checked="" type="checkbox"/> 自らの成長を認知し、さらなる成長につなげる力の育成 |
|--|

教科	芸術	科目	書道Ⅱ	単位数	1	年次	Ⅱ年次
使用教科書	書Ⅱ（光村図書）						
副教材等	くせ字がなおるペン字練習帳（新星出版社）						

1. 担当者から生徒へのメッセージ

書道Ⅱの授業は、漢字の書では特に篆・隸の学習をさらに深く掘り下げることによって、表現の幅を広げることをねらいとします。仮名の書に加えて漢字仮名交じりの書の創作など、紙の種類や形にもこだわった作品づくりがメインになってきます。時間数も少ないので、各自が楽しく書に親しんでもらえたらと思います。

2. 学習の到達目標

書道の創造的な諸活動を通して、書に関する見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と深く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 書の表現の方法や形式、多様性などについて理解を深めるとともに、書の伝統に基づき、効果的に表現するための技能を身に付けるようにする。
- (2) 書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて創造的に構想し個性豊かに表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい深く捉えたりすることができるようにする。
- (3) 主体的に書の創造的な諸活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

3. 評価の観点と評価方法

観点	a：知識・技能	b：思考・判断・表現	c：主体的に取り組む態度
観 点 の 趣 旨	<ul style="list-style-type: none"> ・書の表現の方法や形式、多様性などについて理解を深めている。 ・書の伝統に基づき、作品を効果的に表現するための技能を身に付け、表している。 	<ul style="list-style-type: none"> 書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて創造的に構想し個性豊かに表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい深く捉えたりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 主体的に書の表現及び鑑賞の創造的な活動に取り組もうとしている。
評 価 方 法	<ul style="list-style-type: none"> 作品 ワークシート レポート 	<ul style="list-style-type: none"> 作品 ワークシート レポート 	<ul style="list-style-type: none"> ワークシート ポートフォリオ

4. 学習の活動

学期	学習内容（単元・項目）
1 学期	【仮名の書】 ・ 仮名の古筆臨書（高野切第三種・寸松庵色紙） ・ 仮名の書の創作と鑑賞 ※半切臨書作品制作（「国際高校生選抜書展」に出品）
2 学期	【漢字の書】 ・ 篆書の古典臨書（石鼓文・金文） ・ 篆書の創作 ・ 隸書の古典臨書（乙瑛碑） ・ 草書の古典臨書（書譜） 【漢字仮名交じりの書】 ・ 漢字仮名交じり文の創作
3 学期	【漢字仮名交じりの書】 ・ 漢字仮名交じり文の創作と鑑賞（絵手紙風作品・色紙作品） ★年度末に校内作品展示会を開催予定

5. 科学のもり(SSHプログラム)との関連

<input type="checkbox"/> 科学的な探究方法の習得と科学的な思考力の育成 <input checked="" type="checkbox"/> 他者に対する表現力や他者との協働性の育成 <input type="checkbox"/> 異文化理解の形成と国際的な視野の獲得 <input type="checkbox"/> 文理や教科の枠を越えて転移可能な理解の形成 <input type="checkbox"/> 自ら設定した目標をやり遂げようとする責任感の育成 <input checked="" type="checkbox"/> 自らの成長を認知し、さらなる成長につなげる力の育成
--